

2018年8月31日 第3257回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 北村 会長
<斉 唱> 「我等の生業」
<ゲスト紹介> *NPO法人アクションおっぱま 副理事長 青木 猛 様
*2017-2018年度青少年交換学生 矢島 はな 様
*保護者 矢島 加奈子 様
*米山奨学生 金 穂 勅 様
<ビジター紹介> *RI第2590地区パストガバナー 岡本 徳 彌 様 (川崎北RC)
*横須賀北ロータリークラブ 福島 義 信 様
<会長報告> *第2回理事役員会 報告
*移動例会のご案内について
10月26日(金)～27日(土) 米山記念館親睦旅行会
*横須賀ロータリークラブ釣り同好会発足報告
*竹折会員退会報告
<委員長報告> *米山奨学委員会 山田委員長より米山奨学セミナー 報告
*釣り同好会 加藤淳幹事より「釣り同好会」のお知らせ
11月18日(日) 7:00 金沢八景「黒川丸」集合
同 19日(月) 18:30 「あら井」にて試食会(反省会)
*青少年交換学生: 矢島はなさんより帰国報告
<幹事報告> *週報・・・横須賀北RC及び横須賀南西RCより受領
<出席報告> *出席委員会 福西委員長より8月31日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
122名	104名	70名	34名	3名	70.19%

<ニコニコ報告>

- ・岡本 徳 彌 様 (川崎北RC) 本日はメーカーキャップさせていただきました。7月下旬に長浦倉庫で失火し大変お迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。
- ・福島 義 信 様 (横須賀北RC) いつもお世話になります。
- ・三 役 NPO法人アクションおっぱま副理事長 青木猛様、本日お忙しい中誠にありがとうございます。
- ・松本 剛、福西、澤田、瀬戸、梁井、小平、上林、長尾、植田、長坂、中村(剛)、Enora、小佐野、猿丸、濱田、杵淵、齋藤(剛)、高橋(剛)、信木、小沢、根岸、鈴木(剛)、平田、杉山、三堀、谷 各会員
NPO法人アクションおっぱま副理事長 青木猛様、ようこそお越し下さいました。卓話、楽しみにしております。
- ・福西、八巻、Enora、勝見 各会員 2017-18年度青少年交換学生 矢島はなさん、ようこそお越し下さいました。帰国報告楽しみにしています。
- ・前川、佐久間 両会員 米山奨学生 金 穂勅さん、ようこそお越し下さいました。どうぞ例会をお楽しみください。
- ・長尾、田邊、上林、波島、八巻、高橋(剛)、新倉(剛)、小佐野、小沢、濱田、根岸、宮島、野坂 各会員
川崎北RC 岡本徳彌様、横須賀北RC 福島義信様、ようこそお越し下さいました。どうぞ例会をお楽しみください。
- ・野坂 会員 入会月祝いとして
- ・松本(剛)、勝間、澤田 各会員 谷会員、八巻会員、本日お誕生日おめでとうございます。

- ・加藤 博、新倉 良 両会員 釣り好きの方、釣りに興味のある方集まれ！11月18日（日）に横須賀ロータリー「アジ&イシモチ釣り」を開催致します。皆様のご参加をお待ちしています。
- ・角 井、岩 瀬、濱 田、山 下、越 川、門 井、物 井 各会員
ポケモン経済効果ゲットだぜ！今週日曜日まで続きます。渋滞・混雑にはご注意ください！！
- ・北 村、齋藤 秀、福 西、瀬 戸、澤 田、高橋 秀、佐久間、勝 間、長 尾、江 沢、田 邊、藤村、八 巻、濱 田、波 島 各会員 写真をいただいて

<卓 話> 「 難しいです！ 歴史を活かした横須賀の観光 」

NPO法人 アクションおっぱま
副理事長 青 木 猛 様

みなさん、こんにちは。今日は、お招きいただきまして大変ありがとうございます。今日は時間の都合もありますので、説明のない部分につきましては、後日資料にお目通しいただければと思います。私は、追浜についての活動を行っておりますので、知られていない追浜の姿について、映画製作会社がまとめた映像をまずはご覧いただきたいと思います。

昭和20年8月30日、連合軍は、午前9時半に、追浜の「レッドビーチ」と呼ばれる浜に上陸してきました。連合軍は、相模湾ではなく東京湾に上陸したわけですが、その際、第一海堡に白旗を出させて、「グリーンビーチ」と呼ばれる現在の横須賀米海軍基地に上陸し、追浜の「レッドビーチ」にも上陸を果たします。当時のアメリカの映像は、すでにカラー化されています。横須賀海軍航空隊の本庁舎は、現在の「アイクル」というリサイクルプラザのある左手方向にありました。プロペラがなかったりタイヤがパンクさせられている航空機は、武装放棄によってなされたものです。また、その他有効活用できないと思われる航空機は、一か所に集められた上で燃やされました。夏島には、飛行機を格納する掩体壕が3層にわたってありました。航空隊の本庁舎の入り口には、警備兵がいます。山の上に建てられているのは、海軍航空隊の気象観測所です。貝山という山の展望台になっているところです。深浦から横須賀に向かう道の右手にある瓦屋根の家は、今でもあります。ここは「追浜トンネル」というところです。左手には、海軍航空技術廠がありますのでそちらに進駐していく様子です。後ろにあるのは、等速試験水槽や風洞がありまして、真珠湾攻撃などで浅瀬に魚雷を打ち込む際の実験を行っていた施設で、トンネルの上を今も横断しています。今見えたのは、戦艦三笠です。

航空機の中でもまだ動くものについては、「緑十字」と呼ばれて輸送業務に従事しました。そのため、予科練の兵士の方は、一度解散された後に招集され、輸送に携わった人もいます。前に見える山は、野島です。当時は、野島まで陸でつながっており、飛行機を非難させるために野島に掩体壕が作られていました。掩体壕を100基作る計画で、第300設営部隊が掩体壕を掘りました。この部隊は、松代大本営や慶應の司令部の設置も行いました。この頃、飛行機のほとんどは使えない状態で、厚木基地ほど墓場とは言いませんが、同じような状況でした。ここが後に、日産のテストコースになり、今は「グランドライブ」という名前のコースになっています。この飛行場は、戦地の飛行場ではない実験用の飛行場で、技術廠から性能の悪い飛行機を持ってきてテストパイロットがこの飛行場で練習をしながら性能を高めて、再び現場に送るという作業をしていました。今は追浜の人たちでも、この飛行場の存在を知らない人がたくさんいます。ですから、このことを皆さんに知らせるために、最近ではガイドをしたり、時々講演を行ったりして、追浜のみなさんにも太平洋戦争前後の状況がどのような状況だったのかを知らせています。



これは、風洞と呼ばれるものです。この中に飛行機をぶら下げた状態で風圧をかけ、実験をする施設です。航空技術廠にも航空隊にもあり、相当大きいものです。米兵が上がっていく様子から、この施設の大きさが良くわかると思います。航空技術廠は、民間の飛行機製造会社がとても性能のいい飛行機を製作していく中で、国を挙げて飛行機の製造や修理を行っていた組織です。これも風洞ですが、こんなに大きなものが飛行場の片隅にあったということが窺えます。映像はこれで終わりですので、今日の本題に入ろうかと思えます。

私は観光課長時代に、開国祭やよこすか海軍カレーなど、海軍の歴史を活かした街づくりを考えてきました。そのころは、よく知らないまま進めていた部分がありましたが、今改めて歴史を考えることが重要だと考えています。いま、横須賀市は、「ルートミュージアム」を目指しており、2020年10月にはヴェルニー公園内にガイダンスセンターがオープンする予定です。ガイダンスセンターは、横須賀に点在している構成文化財という日本遺産認定の文化財をまとめて紹介する施設ですが、追浜にある貝山地下壕も構成文化財に含まれています。これについても、より良い形で市外の方にアピールしたり、生徒のみなさんに勉強の場としてもらうために活動しています。横須賀市は、「ルートミュージアム」という用語を用いていますが、私どもNPO法人が目指しているのは、「フィールドミュージアム」という構想です。「フィールドミュージアム」とは、街の中がどこでも博物館や資料館になるという考え方です。小学校の生徒たちから「先生は私たちに何を伝えたいのですか。」という鋭い質問をいただくこともありますが、追浜に住んでいる人について、地域の歴史を勉強して、自分の街に誇りを持ってもらい、横須賀一番の工業地帯である追浜をいろんな人に広めていってほしいということを伝えています。みなさんがノーベル賞を取るような人になってくださいと言って、笑っていただいたりしております。

横須賀市の考え方である「ルートミュージアム」とは、市内にある構成文化財を周遊してもらって、そこでいろいろな経済活動をして横須賀の経済を活性化させようというものです。その際には、様々なアイデアが必要だと思いますが、観光都市と一口に言ってもなかなか難しいものなのだと思います。その中で、「フィールドミュージアム」という考え方は、「ルートミュージアム」で地域を周遊した方を地域で歓迎し、サービスを提供しながら追浜でも経済活動していただいて街の賑やかさ・潤いを作っていくという考え方です。そのため、「ルートミュージアム」と「フィールドミュージアム」の両方を結びつけながら活かしていくことが大事だと思っています。経験的には、よこすか海軍カレーを打ち出した際には、横須賀中央は潤いましたが、その他の地域では、観光客から「カレーの街というくらいだから街全体がカレーだと思ったらそうでもない。」という意見がありました。その教訓からは、今の街は地域が大事だと思っています。私は、貝山地下壕の見学をサテライトとして行っていますが、案内したり指導する人を育成したり、史跡をどのように見せるのか街の人にどのように伝えるのか、オール追浜、オール横須賀で歓迎することが大事だと思っています。その中で、ヴェルニー公園内につくられるガイダンスセンターは、旧ティボディア邸の素材を生かして作ると聞いていますので、非常にうれしく思っています。また、完成したセンターが、どういう動きをしながらどういうお客さんと携わっていくのかということを見守って、何かあれば協力しながらやっていきたいと考えています。

まとめますと、「フィールドミュージアム」とは、住民が主体となって地域情報や意識を共有することが大事だという考え方です。地域の資産というと、「うちには何もありません。」という方がいますが、自分では何でもないと思っても、お客さんにとってはすごいことだと思っていることもありますので、そういうことを見直して掘り起こして磨きをかけることが地域のお宝を発見するには大事なことです。住民・地元の団体・学校など街全体が一体となることが大事です。資産は掘り起こすだけではなく整理し、記録に残し、後世に伝えていかなければなりません。見学会・写真展・冊子づくりなどの活動を活かしていくことです。山梨の早川町は自然しかありませんので、自然自体を「フィールドミュージアム」にしていますし、千葉では歴史的環境・戦争遺構を保全して後世に伝えることもしています。追浜は、どちらかというとな千葉の「安房・地域まるごとミュージアム」に近いと思います。追浜には、鷹取山や鷹取川があります。どのように構築して「フィールドミュージアム」にしていくのか、ロッククライミングなどの可能性を考えてみたいと考えています。街づくり・街を元気にしていくために、様々な活動をしています。

私はいま逗子に住んでいますが、横須賀は生まれ育った町ですし、逗子に住んでいても横須賀のことしか気になりません。今後も追浜で活動を続けていきますので、ご支援をお願いいたします。大変ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 北村 会長

週報担当 角井 駿 輔